

第2回 現本庁舎等跡地活用に関する検討委員会（議事概要）

- 1 日時 令和元年10月25日（金）午後2時～午後3時30分
- 2 場所 市役所本庁舎6階 6-3会議室
- 3 出席者 (1) 委員（欠席2名）
福山委員長、河村副委員長、中山委員、木谷委員、橋本委員、金谷委員、
西岡委員、土橋委員、民野委員、木下委員、宍道委員、谷上委員
(2) 事務局
高橋企画推進部長、塩谷政策企画課長、永井財産経営課長、平田政策企画課
長補佐
- 4 内容 議題について、資料【1-1】、資料【1-2】に基づき事務局より説明し、委員の意見を伺った。質疑応答の要旨は以下のとおり。

（1）活用策検討プロセスとチェックフロー図（案）について【資料1-1】、【資料1-2】

- 委員 本日の資料は、これまでの委員会の議論を反映し、鳥取市と自身が一緒に作成したものの。フロー図について意見をいただきたい。
- 委員 前回の委員会での意見が反映され「これでもかと言うくらい」かなり嚴重になっているというのが正直な感想。嚴重なフローを経ていくと意見集約型施設になっていくのではないか。みなさまの意見が聞きたい。
- 委員 前回の議論でもそれを危惧していると言っていた。チェックや市民の意見を聞くとそれで進んでしまうこともある。書き込み方・表現が難しいところもあるので議論したい。
- 委員 幅広く市民の意見を聞くのは非常に大切。市として将来・未来を考えた利用の仕方があると思うが、市の構想が出ていない。市民の意見を寄せ集める手法だと、あまりにも幅広くいろんな意見をまとめるのは難しいのではないか。市として未来に向けての提案があった方がわかりやすい。
- 委員 機能・活用策の前提に現状認識・課題がないと機能が出てこない。現状はこうだから5年後10年後こうしたいという考え方を示さないとまとまりがつかない。機能の前に現状認識・課題を踏まえることで機能や果たすべき役割が出てくる。
- 委員 市はどう関わっていくのか。行政課題を示す必要がある。例えば、文化施設が少ないとか日常の買い物ができる施設が少ないとか今後人口がどのように減少するとか、公共施設統合の話とか、そういう現状を勘案しながら機能を抽出する流れを作してほしい。
- 委員 前提として何の目的で活用するのかが必要。中心市街地活性化なのか、美術館機能の補填なのか。理念・目的は何なのかがほしい。(1)③に文化団体を追記してほしい。
- 委員 機能と活用策は一体のもの。分離する考え方はどうか。
- 事務局 機能は大きなくくりで考えたい。例えば、「住民生活サポート機能」、「住宅機能」、「商業機能」、「安全安心機能」のように大きなくくりで機能を整理し、その後、その機能を発揮するために具体的な活用策を決めていく考えである。

- 委員** 機能は目的になっており、活用策をみんなで考えていこうというもの。フロー的にはかなりわかりやすいし、合議の取り方で言えば誰も反対できない民主的なやり方。その目的をワークショップで抽出してまとめていくのは、既に市が示している20年・30年後のガイドラインと同じようなものが出てくる。現状把握になろうとする。こうした方がいいというのが難しい。どうしたらよいか。
- 事務局** 今の委員の発言がまさにここでは機能ということで考えてもらったらいい。委員の発言でもあったが現在の課題にもつながってくると思う。そして最終的に目的につながっていく。こんなことが不足しているからこんなものがあつたらいいとかこう活用したらいいという2段階での考え方・進め方が念頭にある。国土交通省も参考にして提示している。先ほど事務局からも説明があつたが、市の財政状況や計画等を市民のみみなさまにお示ししながらワークショップやアンケートを行うとあつた。委員から課題や現状を1番最初に示すよう意見があつたので修正する。みなさまの議論をお願いする。
- 委員長** 市の方針、市の現状認識・課題をもって市民に問いかけることが必要。市民・住民任せにしている感じが強い。市としての考えを示す必要がある。市が持っている機能・足りないもの・課題等、いろんな切り口で市民と議論する場を提供したい。これまで市がやってきたことと重複したとしてもやってきたプロセスが大事。
- 委員** 国土交通省のガイドラインがいつのものか分からないが、大きさ施設を建設するときはこのフローをたどる。日本全国でも同じフローが使用されているが成功事例が圧倒的に少ない。潤沢な資金があればいいが、失敗事例は見たくないので成功事例を参考にしていくか。一方で、フロー図は極めて合議的で民主的。機能・活用策を決定するまでの期間はどれくらいか。そこから逆算しワークショップの回数等を決定したい。
- 事務局** プロセスの期間は具体的に何年とか何ヶ月とか決めていない。解体工事と並行して進めていきたいが、いつがゴールかは考えていない。ワークショップは1回でいいのか、何回か開催した方がいいのか、市民の意見を聞きながら決めたい。
- 委員** ワークショップやストリートミーティングではどういう人を集めるのか。周辺の人、新市の人、直接的な使い方をする人で様々な意見が出る。構成・規模・回数の設定が難しい。ストリートミーティングについても若者がいろいろ居る。ワークショップは形式だけになる一面もある。どう運営していくのか。
- 事務局** 発言のとおり。近くの方、離れている方、利用方法や回数も当然違う。基本的に市民みなさまの財産であるという観点は変わらない。スケジュール感は回答できないが、前回の検討会で説明した国の「南北線」のケースでは、最初の意見聴取、本日の資料では①に6ヶ月程度、②は今年2月から実施中であり、1年以上かかっている、同じにはならないがひとつの目安として紹介した。
- 委員** 市民への公表・情報提供のあとのレスポンスは。パブリックコメントは実施するのか。
- 事務局** ②市民からの意見提出に含めている。
- 委員** ストリートミーティングということで若者からの意見聴取を別建てしている理由は。
- 事務局** ストリートミーティングは現在も実施している。地方創生を進めるため若者と市長が直接対話をするもの。若者と市長等との直接対話を想定している。

- 委員 ストリートミーティングとは若者と市長等の意見交換ということか。
- 事務局 お見込みのとおり。いろんなチャンネルで意見聴取したい。
- 委員 市民会館が老朽化している。市民会館を残すかどうか、一体的に考えていくのかで大きく考え方が変わるのではないか。
- 事務局 市民会館の方針について具体的な議論には入っていない。庁舎跡地利活用について市民会館を含めてという話は出てくる可能性はある。機能を伺う中で出てくるかも知れない。市民の方に意見を伺う前に「市民会館はこうするんだ」という提示が必要なら市として努力しなければならいが、今のところ「市民会館をこうする」というのはなく、①で意見を伺ったり議論をしていただければと考えている。
- 委員 機能について意見聴取する前に情報提供が必要。現状や課題がなければワークショップ・ストリートミーティング等でやりたいことばかりの意見が出る。鳥取が求めることや財政状況等を踏まえやりたいこととできることを考える必要がある。議会のチェックとはどのように行うのか。また、有識者は何をどのようにチェックするのか。③の選定についてどの会議でだれが決定するのか。
- 事務局 議会のチェックは、調査特別委員会を想定している。次の有識者にはいろんな場面で「この進め方・取りまとめでいいのか」等をチェックしてもらうよう想定。③の選定の主体は鳥取市。したがって選定は鳥取市が行わないといけないと考えている。
- 委員 赤字のチェックは「プロセスのチェック」や「次のステップに進めるかのチェック」であると認識している。例えば「意見が集まったので10個にまとめた」というようなことに関するチェックもあるのか。
- 事務局 ある。
- 委員 そういう認識に変える。
- 委員 例えば、施設が出来上がろうとするときに宣言やコンセプト文が掲載されるはず。その中に地域活性化であるとか文化的なというようなキーワードが出てくると思う。地域活性化を本気で狙うのであれば、銀行員30代の方を20名くらい集めて「この施設を建設した場合、投資をするかどうか」を聞いてみてもいい。文化的な施設であれば文化人に議論をしてもらい選択肢を作ってもらう方法もある。ワークショップで漠然と聞くよりは、選択肢を示す方が議論は深まる。ワークショップは15人程度で実施すると発言時間が少ない。4人程度であれば継続して考えなければならない。例えば「温泉が出てくればいい」のような希望的なものは考えれば難しいし、話していくと難しいと感じてもらうこともいいのではないか。
- 委員 選択肢の提示は賛同する。民間の活用もあり得る。このプロセスで進んでいった場合、民間から提案する余地は感じない。民間から意見を言う可能性がつぶされている。①で市民側から意見を求めるということは、鳥取市として求める意見を認識していないということか。これまで市民との対話をたくさんしてきたと思うが、今このタイミングで意見を聞くのは今まで聞いていなかったということか。市の活用策を言えないのかと思ってしまう。市の意見を提示できるのであれば前半のプロセスは必要なのか。
- 事務局 選択肢の提示ということで、民間の方の意見を伺うことは入っていない。いわゆるサウンディング調査は求められる機能というより、「どのように使われるのか」を聞くこ

とになると考える。サウンディング調査は個人的には入れた方がいいと思う。まちづくりの観点については、先程来、多くの方から意見をいただいている。中心市街地活性化計画で市民の意見は聴取している。それはあくまで中心市街地活性の観点である。中心市街地活性化の視点も大切であるが鳥取市全体の視点も大切である。そういう意味で鳥取全体でどう活用していくのかという観点で意見を伺いたい。必要かどうかは議論していただければと思う。

○委員 前回の検討委員会で、庁舎の解体に2年くらいかかる日程になっていた。2年後、3年後となれば問題点・考え方も変わってくる。時間がかかるのであればスピードアップを図ることも必要である。解体後、何もしなければ暗いイメージになる。解体と並行して検討するプロセスがいい。

○委員 全体スケジュールを示せれないということだが、スピード感がなくただらというわけにはいかない。住民の意見も大切であるし、民間・商工団体・銀行・文化団体等、全体意見が必要。まず①機能と効果や課題の整理をやってみて、その後、②や③の議論を進めてはどうか。

○委員 2年か3年解体に要するし、その間の使い方もある。

■事務局 解体にある程度時間はかかる。解体と並行して議論・検討を進める必要がある。何年もかかるようであればどこか省略・短くできるようなところはないか、長くかかるようであれば見直しを図ることはあってもいいと思う。発言のとおりいつまでもただらするのは避けるべきである。だからと言って、拙速に進めるのもよくない。これから委員会も行い、また、議会の意見も伺う中で、「遅いぞ」という意見があれば執行部としては早く進めるように努力しなければならない。

○委員 スピード感について。例えば5年後に利活用がスタートすれば2～3年間は放置することになりもったいない。全体としてスピード感を持つのはいい。合議的なやり方の手順は踏んだ方がいい。決定までの時間を早くするためだけに省略することはいけない。旧庁舎の場所にネガティブなイメージが乗ってしまうことは避けた方がいいし利活用ができるのであればした方がいいと思う。市役所の引っ越しが始まり3週間が経過し人がいなくなっていると実感している。5年間空くのであれば、例えば、駐車場や公園も考えた方がいい。2週間前に全国で台風による災害が発生した。例えば災害が起こった場合は、フローを踏んでいくよりも「この施設が欲しい」ということになる。災害を踏まえて手順を変更することも必要。

■事務局 補足説明。解体まで市役所駐車場を市民会館の駐車場と有料駐車場で使用する。暫定的な処置である。

○委員 有料でなければダメなのか。

■事務局 恒常的に駐車されてしまったり、周辺民間駐車場との兼ね合いがある。

○委員 最後の選定は市で決定すると説明があったが、なぜ、どのように決まったのか疑念を持たれないよう透明性を持たせるため公開会議のような方法も検討してほしい。

○委員 跡地活用について考えもしなかった意見やオファーが表の外にあり得る。市民の納得という視点から段階を踏むプロセスであってほしい。いろんな意見を聞いて全部の意見を聞いて赤字で出るような施設になることは避けたい。そのイメージをこの図には

載せたくない。「いろんな意見が出たが鳥取市はこれで決めます。」と言ったとき、それが1番いいと思っていない方もたくさんいるが、「このプロセスで決めたのでそれは納得します。」という話になっていくようなフロー図であってほしい。みんなで頑張ろう。

- 委員 今日議題と直接関係はないが、市が公表する政策の進捗状況について、文書が多くイメージが湧きにくい。図やビジュアル化するなど工夫してほしい。進捗状況がより分かりやすい情報提供をお願いしたい。わかりやすければ政策に参画しやすい。
- 委員 逆に鳥取市にとってはチャンスである。わかりやすい情報提供をお願いする。
- 委員 このフロー図に今日の意見を盛り込んで、③選定には透明性を確保することが必要であることも記載し、早めに市民に示し新しい段階に入っていく必要がある。解体が迫っているので市民から意見が出てくる。
- 委員 ワークショップに入る前段として、市が描くビジョンや目的がフロー図に入ってくるのか。
- 事務局 具体的に次回の検討委員会で示すことはできないが、どの段階で示すのかを提案することはできる。
- 委員 具体的でなくてもいいのでフロー図に入れてほしい。
- 委員 今日の意見をフロー図に落とし込み作業を進める。
- 委員 次回の検討委員会で、鳥取市のビジョンが掲載されている第10次鳥取市総合計画の簡易版を提供してほしい。
- 委員 併せて中心市街地活性化計画も参考になると思うので配布してほしい。
- 事務局 ご指摘のとおり参考になると思う。
- 委員 次回の検討委員会では資料を充実させることとする。

(2) 第3回検討委員会について

- 事務局 次回については、本日の内容を取りまとめ委員長と協議の上、内容・時期を決定する。

4 その他

なし